

北海道栄養短大 杉村 道男

家計会計の目的は、端的に表現すると、家庭経営の自己診断である。したがって、外部からの診断でなく、内部診断と理解する。

さらに、家庭経済の合理化のためには、まづ家計会計をつける習慣により、その実態を知り、それによりムダを省くことである。このことは、設計と実績とを比較すること、つまり、原価意識をもつことである。しかし、大体において、差異を生ずることは普通である。また、過去における誤りは、二度と繰り返されぬようにすることが大切である。

かくして、常に Plan, Do, See の原則をフィードバックすることにより、自主的にその標準を高めてゆくべきである。これからは、原価意識をもち、自らの研究が必要である。このことは、創意と工夫、経験の積み重ねにより、近代化の促進をはかるべきである。

勘定体系についても、東洋と西洋との国民性の差異によるものである。

このことは、物の考え方の相違にもとづく日本は上下、西洋は、横の相対関係であり、勘定の学説を批判

し、その Point を明白にしようとする。

家計は、個別的経済であり、生活改善は能率的な生活を
すすめるための手段として、家計会計の勘定体系を説明せ
んとする。